

My-Skip supporter

マイスキップを個人的にサポートしていただいております。

●ご協賛者

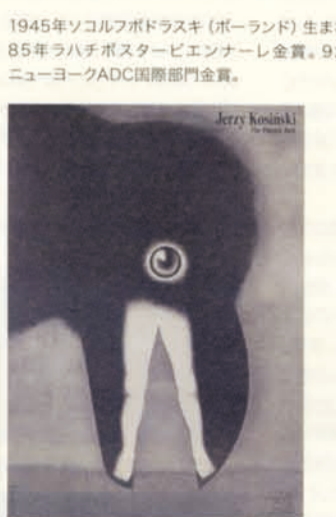
- 1月号ご入会
 - 廣井 晃 (広井工機)
 - 松本 克稔 (明日の職士を語る会)
 - 廣川 静代 (明日の職士を語る会)
 - M・K
 - 久須美賢和
 - 田所 大 (株)
 - 太刀川 三三 (株)
 - 桑原 望 (株)
 - 木村 信男 (株)
 - 宮下由加里 (株)
 - 小森 幸子 (株)
 - 渡辺 仁 (株)
 - 関川 浩平 (株)
- 2月号
 - 中野 勝子 (株)
 - 小林 千 (株)
 - 丸岡 善雄 (株)
 - 安藤 栄子 (株)
 - 林 大 (株)
 - 大井 盛久 (株)
 - 秋山孝ポスター美術館
 - 根岸千代子 (株)
 - 河田由美子 (株)
 - 金井 英雄 (株)
 - 田村 宏 (株)
 - 井上 道子 (株)
 - 村上 道子 (株)
 - 細貝 隆 (株)
 - 田邊 進 (株)
 - 立見 進 (株)
 - 西脇 進 (株)
 - 今井 進 (株)
 - 小島 一則 (株)
- 3月号
 - 大原 久治 (株)
 - 高橋 利幸 (株)
 - 丸山 孝治 (株)
 - 堀口 孝治 (株)
 - 吉澤 義孝 (株)
 - 小船井 孝治 (株)
 - 佐藤 秀治 (株)
 - 羽野 龍夫 (株)
 - 永井 和子 (株)
 - 西川 孝 (株)
 - 小林 真司 (株)
 - 恩田 真司 (株)
- 4月号
 - 渡辺 優子 (株)
 - 巨 三 (株)
 - 南 マサ子 (株)
 - 小南 洋子 (株)
 - 豊口 協 (株)
 - 池田 重則 (株)
 - 野村 修三 (株)
 - 藤井 秀 (株)
 - 原 秀雄 (株)
 - 田村 秀雄 (株)
 - 渡辺 美子 (株)
 - 澤 秀一郎 (株)
 - はっちやま・喜子 (株)
 - 田村 晴男 (株)
 - 今井 雄介 (株)
- 5月号
 - 並木 純子 (株)
 - 戸川 淳一 (株)
 - 石田 章 (株)
 - 石橋 文夫 (株)
 - 今井 宏明 (株)
 - 渡辺 四朗 (株)
 - 廣田 幹人 (株)
 - 吉野 栄子 (株)
 - 山崎 忠雄 (株)
 - 藤原 隆 (株)
 - 浅川 恵子 (株)
 - 吉田 朗 (株)
 - 中村 公哉 (株)
 - 藤越のむらさき (株)
 - 品田千鶴子 (株)
 - 江口 賢司 (株)
 - 七里 貞雄 (株)
 - 加瀬由紀子 (株)
 - 岸 裕 (株)
- 6月号
 - 丸山亮・宏美 (株)
 - 高森 精二 (株)
 - 戸川 則夫 (株)
 - 久保 純誠 (株)
 - 伊丹 新 (株)
 - 小宮山芳治 (株)
 - 牧野 忠昌 (株)
 - 安藤 栄治 (株)
 - 長谷川 浩 (株)
 - JFBスタジオかわる真鶴 (株)
 - 桜井カツエ (株)
 - フラワーサロン WE (株)

マイスキップサポーター募集中です

年間1万円の会費制で、毎月指定先へ発送。サポーター欄に、お名前(会社名)を掲載させていただきます。皆様のお力でささやかな(万年赤赤字体質な)マイスキップを支えていただければ幸いです。
 メール myskip@e-netcity.jp 渡辺
 Tel.Fax.0258-37-1022 石原
 振込先:郵便振込/00530-4-56542 マイスキップ
 北越銀行開支店/番 238615 My Skip

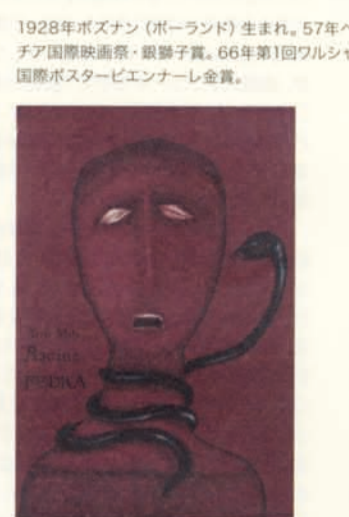
●構成・制作:秋山孝/御法川 哲郎

ヴィエスワフ・ロソハ
Wieslaw Rosocha
1945年-



コンスキ「籠の中の鳥」 1991年

ヤン・レニツァ
Jan Lenica
1928年-2001年



ジャン・ラシエズ作「フェードル」 1977年

マチエイ・ウルバニツ
Maciej Urbaniec
1925年-2004年



「サーカス」 1970年

フランシシェク・スタロヴェイスキ
Franciszek Starowieyski
1930年-2009年



「スタロヴェイスキ・ポスター展」 1985年

ヴィクトル・ゴルカ
Wiktork Gorka
1922年-2004年



ボブ・ポッシー監督「キャバレー」 1973年

秋山孝ポスター美術館長 第13回企画展
「ポスターの巨人」長岡 展
日時:6月1日(土)-6月29日(土) am11:00-pm5:00 ※火曜日休館
会場:秋山孝ポスター美術館長 〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8
Tel.Fax:0258-39-1233 E-mail:info@apm-nagaoka.com
公式ホームページ:http://apm-nagaoka.com

ヴィエスワフ・ヴァウクス
Wieslaw Walkusi
1956年-



アルベール・カミュ作「カリキュラ」 1990年

1914年コモロヴィツェ(ポーランド)生まれ。クラクフの国立美術大学、クラクフ美術大学のグラフィック・アート学部で学ぶ。グラフィック、本およびポスターのデザイナー。
 ポーランド国家は社会主義国の中でも特に、芸術的なものにおける束縛や抑圧をせず、おおらかに容認した。それ
 今時の展示のテーマは、ポーランドの文化を代表する天才たちがいることを忘れてはならない。
 現、あるいは、風刺性、どろどろとした欲望を表現の武器とし、内面をえぐり出すような美しさと、それが十分に理解できるはずである。ポーランドと言えは、それが十分に理解できない。生涯230曲にもなるほどの作曲をし、「ピアノの詩人」と言われた、ポーランドの民謡をアレンジし、首都ワルシャワに思いを馳せた人でもある。若くして39歳でパリで生涯を閉じた。さらに、15世紀の天文学者ヨハネス・デ・ワルシャワが地動説を発表したり、2のノーベル賞を獲得した研究者にして妻にして母のマリィキリー、それから東欧初のローマ法王、愛と希望の巡礼者ヨハネ・パウロ2世、ノーベル平和賞を受賞した「鉄の男」レフ・ワレサ、映画監督のアンジェイ・ワイダなど、ポーランドの文化を代表する天才たちがいることを忘れてはならない。

秋山孝のデビューは、1986年ワルシャワ国際ポスター・ビエンナーレで金賞を受賞したことに始まる。それ以前からポスターの研究をやっていたが、やはり自分の足で1枚1枚を確認し、コレクションしなければならぬという自覚のもとに始まった。そのころが、ポーランドポスターの巨人である。
 ポーランドのポスターは、ポスターアートが評価されるはじめた1960年代に始まり、ワルシャワ国際ポスター・ビエンナーレと共に、ポーランドの独自性のある表現が世界で価値のあるものとして位置づけられた。それは社会主義国における独自性にもならず、資本主義国にはない文化的芸術性を重んじたメッセージが込められたもの。例を挙げると、演劇映画、美術、サーカスなどの催事の告知ポスターで、アメリカヨーロッパを中心とした資本主義国には見ることの出来ない、人間の内面性を刺激する表現を全面に打ち出したものだ。これほどまでに深層心理に入り込み、表面的なものでもなく、悲しみ、苦しみ、裏切り、嫉妬、嘲り、風刺というキーワードが浮かび上がるほどの文学的・文芸的表現。これらに驚嘆の眼を見張ったのが、資本主義国のデザイナーたちであった。絶対に消費社会を促すためのポスターでないことは確かである。人間の喜びや悲しみを歌い上げることには終始
 ポーランド国家は社会主義国の中でも特に、芸術的なものにおける束縛や抑圧をせず、おおらかに容認した。それ

とは逆に、当時のソビエト連邦やチェコスロバキアのような社会主義国は、厳しく監視し、表現の豊かさを封じ込めてきた。ポーランドの歴史を垣間見ると、それが十分に理解できるはずである。ポーランドと言えは、それが十分に理解できない。生涯230曲にもなるほどの作曲をし、「ピアノの詩人」と言われた、ポーランドの民謡をアレンジし、首都ワルシャワに思いを馳せた人でもある。若くして39歳でパリで生涯を閉じた。さらに、15世紀の天文学者ヨハネス・デ・ワルシャワが地動説を発表したり、2のノーベル賞を獲得した研究者にして妻にして母のマリィキリー、それから東欧初のローマ法王、愛と希望の巡礼者ヨハネ・パウロ2世、ノーベル平和賞を受賞した「鉄の男」レフ・ワレサ、映画監督のアンジェイ・ワイダなど、ポーランドの文化を代表する天才たちがいることを忘れてはならない。
 今回の展示のテーマは、ポーランドの文化を代表する天才たちがいることを忘れてはならない。
 現、あるいは、風刺性、どろどろとした欲望を表現の武器とし、内面をえぐり出すような美しさと、それが十分に理解できるはずである。ポーランドと言えは、それが十分に理解できない。生涯230曲にもなるほどの作曲をし、「ピアノの詩人」と言われた、ポーランドの民謡をアレンジし、首都ワルシャワに思いを馳せた人でもある。若くして39歳でパリで生涯を閉じた。さらに、15世紀の天文学者ヨハネス・デ・ワルシャワが地動説を発表したり、2のノーベル賞を獲得した研究者にして妻にして母のマリィキリー、それから東欧初のローマ法王、愛と希望の巡礼者ヨハネ・パウロ2世、ノーベル平和賞を受賞した「鉄の男」レフ・ワレサ、映画監督のアンジェイ・ワイダなど、ポーランドの文化を代表する天才たちがいることを忘れてはならない。

ヴィクトル・サドフスキ
Wiktork Sadowski
1956年-



ベルトルト・ブレヒト作「トゥーランドット」黒白会談」 1987年

秋山孝ポスター美術館長岡はポスターに特化した美術館である。秋山孝ポスターコレクションの全貌を現すために、研究と共に展示発表し、今回で4回目になる。
 秋山孝のデビューは、1986年ワルシャワ国際ポスター・ビエンナーレで金賞を受賞したことに始まる。それ以前からポスターの研究をやっていたが、やはり自分の足で1枚1枚を確認し、コレクションしなければならぬという自覚のもとに始まった。そのころが、ポーランドポスターの巨人である。
 ポーランドのポスターは、ポスターアートが評価されるはじめた1960年代に始まり、ワルシャワ国際ポスター・ビエンナーレと共に、ポーランドの独自性のある表現が世界で価値のあるものとして位置づけられた。それは社会主義国における独自性にもならず、資本主義国にはない文化的芸術性を重んじたメッセージが込められたもの。例を挙げると、演劇映画、美術、サーカスなどの催事の告知ポスターで、アメリカヨーロッパを中心とした資本主義国には見ることの出来ない、人間の内面性を刺激する表現を全面に打ち出したものだ。これほどまでに深層心理に入り込み、表面的なものでもなく、悲しみ、苦しみ、裏切り、嫉妬、嘲り、風刺というキーワードが浮かび上がるほどの文学的・文芸的表現。これらに驚嘆の眼を見張ったのが、資本主義国のデザイナーたちであった。絶対に消費社会を促すためのポスターでないことは確かである。人間の喜びや悲しみを歌い上げることには終始
 ポーランド国家は社会主義国の中でも特に、芸術的なものにおける束縛や抑圧をせず、おおらかに容認した。それ

1956年オレアンドリ(ポーランド)生まれ。81年ワルシャワ美術アカデミー卒業。84年ワルシャワ国際ポスター・ビエンナーレ金賞、ワルシャワベスト・オブ・ザ・イヤー賞。87年ドイツ国際映画ポスターコンペティション金賞、銅賞。パリ国際ポスター展グランプリ。
 秋山孝のデビューは、1986年ワルシャワ国際ポスター・ビエンナーレで金賞を受賞したことに始まる。それ以前からポスターの研究をやっていたが、やはり自分の足で1枚1枚を確認し、コレクションしなければならぬという自覚のもとに始まった。そのころが、ポーランドポスターの巨人である。
 ポーランドのポスターは、ポスターアートが評価されるはじめた1960年代に始まり、ワルシャワ国際ポスター・ビエンナーレと共に、ポーランドの独自性のある表現が世界で価値のあるものとして位置づけられた。それは社会主義国における独自性にもならず、資本主義国にはない文化的芸術性を重んじたメッセージが込められたもの。例を挙げると、演劇映画、美術、サーカスなどの催事の告知ポスターで、アメリカヨーロッパを中心とした資本主義国には見ることの出来ない、人間の内面性を刺激する表現を全面に打ち出したものだ。これほどまでに深層心理に入り込み、表面的なものでもなく、悲しみ、苦しみ、裏切り、嫉妬、嘲り、風刺というキーワードが浮かび上がるほどの文学的・文芸的表現。これらに驚嘆の眼を見張ったのが、資本主義国のデザイナーたちであった。絶対に消費社会を促すためのポスターでないことは確かである。人間の喜びや悲しみを歌い上げることには終始
 ポーランド国家は社会主義国の中でも特に、芸術的なものにおける束縛や抑圧をせず、おおらかに容認した。それ



特集 ● 秋山孝ポスター美術館長岡 第13回企画展
秋山孝ポスターコレクション研究 4
ポーランドポスターの巨人 長岡

